

令和4年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	貝塚 市議会
報告者	議長 藪内 留治 副議長 南野 敬介 事務局長 井谷 真
視察日時	令和4年7月28日(木) 14:00~16:00
視察先	福岡県 古賀市
概要	<p>議会改革の取り組みについて</p> <p>古賀市は、九州北部に位置し、1997年糟屋郡古賀町が市制施行し誕生した、人口59,450人（令和4年3月31日現在）、面積42.07km²、議員定数19人の海・山と豊かな自然に恵まれた、自然・文化・工業が融和する交通の要所のまちです。</p> <p>古賀市議会の特徴は、議長をはじめ全ての役職の任期は4年であることと、議会改革については、政策推進会議を中心に行っているということでした。早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度ランキングでは2014年度から16年度まで3年連続で、九州沖縄地方の第1位を獲得されています。</p> <p>議会改革については、まず、市内看護大学とのパートナーシップの締結について、2015年2月に当時の議長と学長の間で、パートナーシップ協定書が締結され、これをもとに議員と学生との交流が生まれ、学生の発表会に議員が参加したり、学生による議員へのインタビューなどを通じ、双方に良い効果をもたらしたとのことでした。</p> <p>次に、災害時の議会対応については、「議会版BCP」を作成し、議会基本条例に災害等への対応を追加したことや、災害発生時の時系列行動パターンを決めたり、コロナ禍の定例会等の簡素化についての説明を受けました。</p> <p>次に、政策推進会議について、会議の役割や実績、会議の進め方などの説明を受け、最後に2年間の研修や議論を経て、2021年11月には地球温暖化に対する議会の政策提言を市長に提出し、提言を受けて市長が本会議でゼロカーボンシティ宣言を行うに至ったという説明を受けました。</p> <p>説明の後の質疑応答では、議会基本条例の検証と評価についてや議会BCPの策定に関することなどの質問があり、丁寧なお答えをいただき質疑終了後、視察を終了しました。</p> <p>【詳細は別紙】</p>
所見	<p>議会改革の取り組みについて</p> <p>古賀市議会の議会改革の取り組みについて聞かせていただいた感想は、まず、市議会が議長名で市内の大学とパートナーシップ協定書を締結し、それを足掛かりに交流を行うことにより、議会活動の向上につながったことについて、本市でも取り組むことができないか、考えるきっかけを与えてもらいました。</p> <p>次に、議会版BCPについては、本市においても近年、台風などによる甚大な風水害が発生したり、近い将来発生が危惧されている、南海トラフ地震に備える必要がある中、取り組んでいくべき課題であると考えさせられました。</p>

令和4年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	貝塚 市議会
報告者	議長 藪内 留治 副議長 南野 敬介 事務局長 井谷 真
視察日時	令和4年7月29日（金） 10:00～12:00
視察先	福岡県 大牟田市
概要	<p>議会改革の取り組みについて</p> <p>大牟田市は、福岡県の最南部に位置し、1917（大正6）年に市制施行し、いくつかの合併・編入を経て、2017年に市制100周年を迎えた歴史ある都市で、人口109,405人（令和4年4月1日現在）、面積81.45km²、議員定数24人の三池炭鉱で栄えた、豊かな自然と海産物に恵まれた有明海に面したまちです。</p> <p>大牟田市議会の議会改革の取り組みについては、まず、平成23年2月から施行されている、議会基本条例のポイントについて、①市民意見の聴取に努める。②議会活動サイクルの確立に努める。③政策等調整委員会での論点の整理と集約に努める。④委員会の審査の充実に努める。と挙げていただきました。</p> <p>次に、議会改革の検証について、検証の方法は、毎年度、条例に基づき第1章から第8章まですべての章ごとに検証を行っているとのことで、議会基本条例の制定から10年の節目を迎える、令和2年には総括を行い、最終的にホームページで公表したとの説明がありました。</p> <p>次に、議会報告会について、その運営については、議員全員を3班に分け、市内全9会場にて報告会全体で90分と設定し、議会からの報告を30分程度、市民との意見交換を60分程度として実施したとの説明があり、現在のコロナ禍においては、参加者と時間を縮小して実施しているとの説明がありました。また、議会報告会で出された市民意見の集約と反映に努め、市当局へ議会の総意として、意見・要望等を行った事例について説明を受けました。</p> <p>説明の後の質疑応答では、議会改革の検証をどのように行っているのかや議会報告会について、行政が行う市民団体との意見交換との違いについてなどの質問があり、丁寧なお答えをいただき質疑終了後、歴史ある議場を見学させていただき、視察を終了しました。</p> <p>【詳細は別紙】</p>
所見	<p>議会改革の取り組みについて</p> <p>大牟田市議会の議会改革の取り組みについて聞かせていただいた感想は、まず、毎年度、議会改革の検証についてすべての章ごとに行っていることと、議会基本条例制定から10年の節目を迎えた、令和2年にその総括を行ったということに、そのたいへんさが想像でき、取り組まれた姿勢に感銘を受けました。また、議会報告会については、運営する際に会派を超えて、議員全員を3班に分けそれぞれの役割を決めて協力して行われるなど、様々な苦勞の中で実施されていることが感じられました。さらには、報告会での市民の意見を集約し、議会の総意として、市当局へ意見・要望等を行っているということに、大牟田市議会のパワーを感じるとともに多くのことを学ぶことができました。</p>

大阪府南部市議会議長会先進都市視察報告

貝塚市議会 議長 藪内 留治
副議長 南野 敬介
事務局長 井谷 真

令和4年7月28日から29日にかけて行われた、大阪府南部市議会議長会先進都市視察に参加しましたので、その状況を次のとおり報告いたします。

○ 議会改革の取り組みについて（福岡県：古賀市）

令和4年7月28日 14時～16時 於：古賀市役所 第1委員会室

冒頭、古賀市議会の結城議長から歓迎のご挨拶があり、古賀市の特色の紹介や市議会の現状などについてユーモアを交えお話しいただきました。

続いて、南部市議会議長会を代表して当番市である泉佐野市議会の新田議長から、受入れに対する謝辞が述べられました。

続いて、議会運営委員会委員長の奴間(ぬま)議員から歓迎のご挨拶がありました。

引き続き、視察事項である議会改革の取り組みについて、議会運営委員会副委員長の井之上議員からパワーポイントを使用しての説明がありました。

説明は「古賀市議会 議会改革の取組」という資料をもとに、古賀市議会の特徴について、議長をはじめ全ての役職の任期は4年であることと、議会改革については、政策推進会議を中心に行っているということをお話され、早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度ランキングでは2014年度から16年度まで3年連続で、九州沖縄地方の第1位を獲得したものの、それ以降は評価のポイントと議会の取り組みが合致せず、順位を落としてしまったという説明を受けました。

次に、市内看護大学とのパートナーシップの締結について、2015年2月に当時の議長と学長の間で、パートナーシップ協定書が締結され、これをもとに議員と学生との交流が生まれ、学生の発表会に議員が参加したり、学生による議員へのインタビューなどを通じ、双方に良い効果をもたらしたとのことでした。

次に、災害時の議会対応については、「議会版BCP」を作成し、議会基本条例に災害等への対応を追加したことや、災害発生時の時系列行動パターンを決めたり、コロナ禍の定例会等の簡素化についての説明を受けました。

次に、政策推進会議について、会議の役割や実績、会議の進め方などの説明を受け、最後に2年間の研修や議論を経て、2021年11月には地球温暖化に対する議会の政策提言を市長に提出し、提言を受けて市長が本会議でゼロカーボンシティ宣言を行うに至ったという説明を受けました。

その後、引き続き質疑応答が行われました。

Q：議会基本条例の検証と評価について、各会派の評価が分かれると思うが、意見のまとめ方の方法は。

A：議運の中で検証を行う。例えば、条例の中に災害対応が無かったのでコロナでそれに気づき、1年かけて議運で検討した。

A：会派ごとにするとまとまりにくい。議運で検証を行う方がまとまりやすい。

Q：会議をオンラインでする場合、採決の際、欠席者の扱いをどうしているか。

A：本会議のオンライン化は現在考えていない。委員会からオンライン化を進めており、やれる条件は整備した。オンライン議会での採決には取り組めていない。

Q：政策推進会議について、うらやましく思う。経験談をお聞かせください。

A：理事者に影響力を与える力を持たせたい。各会派の意見の合意形成は簡単ではないが、ゼロカーボンの政策提言の際は追い風もあり、市長のゼロカーボン宣言につなげることができた。

Q：災害時のBCPについて、理事者が災害本部を立ち上げた場合、議会の対応は。

A：議会としての役割を考え、議会自身の災対本部会議を立ち上げる。議会事務局長が議会の災対本部の内容を理事者側の災対本部において報告を行う。

Q：本市も議会BCPを作ろうとしているが、①議場が使えなくなった時の代替地は。②水、食糧の備蓄確保状況や保管場所は。③議長不在の場合の順序は。

A：①具体的に場所は決めていない。②備蓄は十分ではない。大きな課題と認識している。③副議長→各常任委員長等順位は決めている。

Q：本市も議会基本条例は制定から11年目になる。議会の報告会について、条例に記載はあるものの実施せずに現在に至る。市民からの要望の場になる懸念があるが、貴市ではどうか。

A：この3年はコロナで実施できていないが、年1回は必ずやるようにしていた。確かに言われっぱなしの場になっているところもあるが、常任委員会ごとの要望に分けたり、参加者に分かれて座ってもらうなど工夫するようにしている。

Q：政策推進会議の提言のなかで、市の施策につながったものはあるか。

A：オンデマンド交通のAI試行は、一定つながったと考えるが、中々結びついていないのが現状。議会の合意形成が難しい。

Q：議会報告会の際、説明は誰がするのか。

A：常任委員会（3つあり）の委員長が行うケースが多い。

A：以前は対面方式で全体で行っていたが、コロナのこともあり、現在はグループ方式、カフェ方式（コンパクトな単位）で行っており、地域、地域で課題も違うこともあり、専門分野の議員が説明を行うようにもしている。注意点として、予算権を持っていないので、フレーミングをしないよう気を付けている。

Q：災害時にBCPがなかったら困るものなのか。災害時に議員が関与したら、理事者の邪魔になるのでは。

A：議会もまだ経験はない。実際に機能するかは不確か。議会BCPは災害時、議会

機能の立て直しに必要と考える。

Q：政策提言のうち、プラスチックごみ削減について、2年間の議論の中で、環境についてどんな問題があったか。

A：海、川、山はつながっている。川でゴミを出せば海につながる。川の清掃に住民が頑張ってきた。理事者側も市民と一緒に清掃活動等を行っている。大木等の浚渫は市単独ではなかなか実施が難しいので。

以上のような質疑応答があり、最後に泉佐野市議会、西野副議長よりお礼の挨拶を行い、16時に古賀市での行政視察を終えました。

古賀市での視察を終えて、古賀市は本市に比べ人口は幾分少ないものの、市域の面積はほぼ同じで、海・川・山と自然に恵まれたまちで、本市と似ている部分も多い中、災害時の議会対応について、議会版BCPを作成しており、また、議会での政策推進会議が熱心に行われるなど、本市でも参考にさせていただきたい事例が多くありました。

○ 議会改革の取り組みについて（福岡県：大牟田市）

令和4年7月29日 10時～12時 於：大牟田市役所 北別館 第1会議室

冒頭、大牟田市議会の光田議長から歓迎のご挨拶があり、大牟田市の特色の紹介や三池炭鉱とともに育ったまち、石炭のまちというお話をいただきました。

続いて、南部市議会議長会を代表して当番市である泉佐野市議会の新田議長から、受入れに対する謝辞が述べられました。

続いて、説明者として議会運営委員会委員長の山口議員と広報公聴委員会委員長の徳永議員の紹介がありました。

引き続き、視察事項である議会改革の取り組みについて、山口議員からパワーポイントを使用しての説明がありました。

説明は「本市の議会改革の取り組みについて」という資料をもとに、まず、平成22年12月に全会一致で可決・成立し、翌23年2月から施行した、「大牟田市議会基本条例」のポイントについて、①市民意見の聴取に努める。②議会活動サイクルの確立に努める。③政策等調整委員会での論点の整理と集約に努める。④委員会の審査の充実に努める。と挙げていただきました。

次に、議会改革の検証について、検証の方法は、毎年度、条例に基づき第1章から第8章まですべての章ごとに検証を行っているとのことで、議会基本条例の制定から10年の節目を迎える、令和2年には総括を行い、最終的にホームページで公表したとの説明がありました。

次に、議会報告会について、その運営については、議員全員を3班に分け、市内全9会場にて報告会全体で90分と設定し、議会からの報告を30分程度、市民との意見交換を60分程度として実施したとの説明があり、現在のコロナ禍においては、参加者と時間を縮小して実施しているとの説明がありました。また、議会報告会で出された市民意見の集約と反映に努め、市当局へ議会の総意として、意見・要望等を行った事例について説明を受けました。

その後、引き続き質疑応答が行われました。

Q：議会報告会について、市民の議会に対する反応は。市民意識の向上は。

A：評価は難しい。最初はかなりの市民が参加した。人数は減少傾向にある。

(250人前後)市民の関心はあると思う。

Q：報告会のファシリテーターについて、市民から公募するという考えはないか。

A：現状では考えていない。事前準備で、裏方の作業が多くなるのではと思う。

Q：本市では年1回の意見交換会をしている。本市では個人的な意見を述べる場になっているが、①そのあたりはどうか。②相手にフィードバックはしているか。

③本市、中学2年生に出前講座をしているが、ご意見があれば聞かせてください。

A：①市民からは報告会よりも、意見交換会をという要望はある。ただ、議会からはまずは報告を行い、それから意見交換をという考え。報告会については綿密な打ち合わせを行い、事前に練習もしている。また、個人的な意見は控えてもらうように周知している。

②テーマを絞り込み、上位のものは回答するようにしている。

③今は考えていないが、選挙権も18歳となったこともあり、小・中に出向くことも大事なことから思う。

A：②市長まで回答を求めるものは、毎年検証の中に落とし込んでいる。

③市制100周年の際、子ども議会を開催し、本番さながらの議会を実施した。

Q：議会で意見・要望等を行った事例の中で、コールセンターの導入見送りとする際、議員間の討議をどの程度行ったのか。

A：委員会の終了後に毎回行うなど、相当数の討議を重ねた。

Q：会派構成から想定すると、最大会派と一部会派が組んだら議案等すべて可決に持っていけると想像するが、会派を超えて議員間で討議する必要性、議員の総意に持っていく意義について聞かせてほしい。

A：案件によっては、議員24人の総意として重みをつけることを目的とし、議会が一つにまとまって、全会一致をめざすものである。

A：予算委員会などでも、下話しの積み上げで全会一致に持っていくようにする。

Q：本市でも行政側が団体等との意見交換の場に行き、行政が意見・情報等収集しているので、議会は補足という立場をとっているが、行政が収集するのと議会が収集するのとどこが違うのか。

A：スピード感が違ってくるのではと考える。小・中学校へのエアコン設置の件で

は、1,2 年程度は設置が早くなったと感じている。また、市民に議会や議員に興味を持ってもらうことや、議員自らが勉強することにも役立つと考える。

Q：与党、野党の違いで理事者や議会事務局の職員の対応等は変わってくるものか。自身の経験では、与党から野党に変わった際、情報が出てこない経験をしたが。また、議会事務局の調査機能や法制機能についてはどうか。

A：当局には、与党・野党の関係なく資料や情報等について、協力してもらっており、公平に出してもらっていると認識している。法制部門については、市の法制担当とも連携して対応していると認識している。

Q：本市でも議会報告会について、議会条例で定めているものの、現状コロナで実施できていない。貴市では報告会について、意見・要望等について誰がまとめて、誰を中心に行っているのか。

A：常任委員会を活性化させ、意見・要望の取りまとめを実施し、市長への提言につなげるよう実施している。

以上のような質疑応答があり終了後、泉佐野市議会、西野副議長よりお礼の挨拶を行い、次に、議場へ移動し、議場内を見学しました。大牟田市役所本庁舎の旧館は、国登録の文化財に指定されている建物で、その旧庁舎内にある議場も、歴史と文化を感じさせる風格のある造りでした。議場見学終了後、12 時に大牟田市での行政視察を終えました。

大牟田市での視察を終えて、大牟田市は以前三池炭鉱で栄えたまちで、歴史と文化が感じられるまちで、議会においては、議会基本条例、議会改革、議会報告会などについて熱心に取り組まれており、市当局へも議会が一致団結して意見や要望を提言されるなど、本市でも参考にさせていただきたい事例が多くありました。

以上、大阪府南部市議会議長会先進都市視察の報告といたします。